

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所
事業所名：辰野町東部保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	講評
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。	[取り組み状況] 子ども一人ひとりを大切にし、保護者や地域から信頼される保育園を理念とし、安心して子どもを預けられる保育園の基本方針のもと、子どもの一人ひとりの発達を援助し、地域に開かれた子育て支援の拠点となるように0～5歳までの各年齢に応じた計画が作成されている。 [検討課題] 保育過程の定期的な見直し評価を職員間で行い、保育園の実態を把握したうえで、全体的な計画の作成が期待される。
					■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。	
					■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。	
■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。						
□ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。						
(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。	[取り組み状況] 未満児、以上児棟にそれぞれの生活の拠点を置き、安心できる生活のリズムが作られている。設備面でも、子どもたちがくつろいで遊んだり、落ち着ける空間があり、今年度より各部屋に冷房設備が設置され、熱中症予防や、午睡には快適な環境となっている。 なお、不審者対策として園庭側のドアサッシは閉めているが窓は開け、風を五感で感じる配慮がある。 [検討課題] 遊び、学習、食事、昼寝の際の環境設定については更なる取組みと、子どもの探究心などを更にかきたてるような工夫も期待したい。		
			■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。			
			■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。			
■ 9 内装等には、木材を利用している。						
■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。						
■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。						
■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。						
② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	[取り組み状況] 一人ひとりの家庭環境、子どもの個人差に配慮して寄り添う保育に心掛けている。 [検討課題] 子どもを尊重する保育のためのチェックリストなどを活用して、職員間での共通理解の下に、子どもを更に肯定的にとらえて行く保育となることが期待される。			
		■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。				
		■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。				
		■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。				
		■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。				
		■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。				

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。		b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>[取り組み状況] 期案、月案には、0～5歳までの発達に応じた基本的な生活習慣(排泄・食事・清潔・着脱・睡眠)についての計画があり、毎日の繰り返しの中で、身につくように支援を行っている</p> <p>[検討課題] 自分の体のことを知り、病気にならないために、促されなくても習慣化でき、自律へ向かえる取り組みを期待したい。</p>
		④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。		b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>[取り組み状況] リズム室と廊下が階段でつながり、広い廊下は遊びが発展できるようにベンチがある。 廊下の隅には段ボールで作ったトンネルやままごとコーナーがあり、共同して遊ぶ空間もある。 散歩コースも多く、木の実を拾ったり、坂道を登る場所も多くあり、地域の公民館に出かけての高齢者との触れ合う機会もある。</p> <p>[検討課題] 地域資源リストの活用でその幅を広げるなど、保育園を応援してもらえるサポーターの依頼などが出来る様な取り組み、また、保育園の情報の発信をしていくことも必要であろう。</p>
		⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。 ■ 36 子どもの表情を大切に、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>[取り組み状況] 一人ひとりの子どもの成長の過程を見ながら、手、指を使う遊びを取り入れたり、移動が出来るハウスは子どもたちのお気に入り、保育士を仲立ちに遊びを楽しむ姿がある。 毎日、子どもの園での生活の様子を連絡帳で知らせて、保護者と成長の喜びの共有に努めている。</p> <p>[検討課題] 子どもたちが散歩で自然に触れたり、探索したりと、様々なことに興味を持ち、発達の支援をしていく保育の成果に期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<input checked="" type="checkbox"/> 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 <input checked="" type="checkbox"/> 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 44 保育士等が、友だちとの関わりの仲立ちをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>未満児の月齢に考慮して、クラスを2部屋にして保育を行う事により子どもが落ち着いて生活している。</p> <p>そして、遊びや制作、散歩は一緒に行っている。部屋で子どもがままごとで楽しむコーナーは、保育士の手作りのベンチやテーブルがある。</p> <p>また、オムツが早くはずれるように一人ずつの専用のいすがあり、そこで着替えている。</p> <p>毎日、連絡帳を通して子どもの様子を知らせて、家庭との連携に努めている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>一人ひとりの発達を見守り、子どもにゆっくりと寄り添った支援での保育の継続に期待したい。</p>
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<input checked="" type="checkbox"/> 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>3～5歳まで期案、月案、週案を作成して活動している。歌やリズムなどを一緒にしたり、廊下では段ボールで作った長いトンネルや、ままごとの出来るコーナーもあり、保育士が工夫して作ったベンチやベットで縦割りで遊ぶ姿もある。そして、クラス便りでそれらの子どもの生活を伝えている。</p> <p>子どもの声を大事にして、遊びの広がりができるような支援と配慮に心掛けている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>子どもの日常のかかわりのエピソードなどを発信したり、年長児については就学を見通した生活リズムの配慮が必要と思われる。</p>
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<input type="checkbox"/> 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 <input type="checkbox"/> 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>支援を必要とする子どもには、加配保育士の配置があり、個別の支援計画はクラスの子どもの計画と整合性をもたせている。</p> <p>保健師、臨床心理士の定期的な訪問も有り、相談に応じている。子ども、保護者と共に医療相談にも同行している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>支援の必要な子どもの支援で終わることなく、その保護者にも更に寄り添い、全ての子ども、保護者で共感し援助する取り組みも期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■ 59	1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。	[取り組み状況] 未満児、以上児と別々に長時間保育士による保育が行われ、長時間専用の部屋で過ごしたり、園庭で遊んだりしている。 担任から長時間担当には連絡用紙で連携を取っており、長時間利用の名簿には降園時間、送迎の保護者が記入され、長時間日誌も毎日記録されている。 水分は常に摂取でき、6時以降は補食も提供されている。また、子どもの利用状況に応じた保育体制も出来ており、その保育内容も記載されている。 [検討課題] 保護者にも更に安心を提供する保育の継続を期待したい。
				■ 60	家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。	
		■ 61	子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。			
		■ 62	年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。			
		■ 63	保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。			
		■ 64	子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。			
		■ 65	担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。			
		⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b)	■ 66	計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。	[取り組み状況] 保育指針の「幼児期の終わりまでに育ってほしい項目」を視野に入れた計画を基に実践している。就学先の小学校の校庭で遊ぶ機会や運動会への参加等、小学校を身近に感じる取り組みを行っている。 また、学校教師の来園や合同研修、配慮を必要とする子どもに関する情報の共有など、連携への取り組みが視られる。 [検討課題] 就学に合わせた時間配分や着席時間の確保等の取り組み、また、保護者にも学校生活に合わせた生活リズムを整えるなど、子どもの環境作りへの配慮が期待される。
				■ 67	子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。	
				■ 68	保護者が、小学校以降の子ども生活について見通しを持てる機会が設けられている。	
				■ 69	保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。	
				■ 70	施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	■ 71	子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。	[取り組み状況] 年間保育計画に沿い、定期的な健康診断、視力検査、歯科検診の実施、毎月の身体測定で一人ひとりの健康状態、発達状態を把握している。 また、既往歴や予防接種の有無などは保護者と職員の共有が図られている。 さらに、園日よりその季節に流行しそうな感染症などについても知らせ、予防や防止にも努めている。 [検討課題] SIDS対策として、特に未満児は記名にての確認や、何を確認するか of 具体的事項の周知、そして、保護者に対しても家庭での注意についての情報提供は必要であろう。
				■ 72	子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。	
				■ 73	子どもの保健に関する計画を作成している。	
				■ 74	一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。	
				■ 75	既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。	
				■ 76	保護者に対し、保育所の子ども健康に関する方針や取組を伝えている。	
				■ 77	職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。	
				□ 78	保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>健康診断、視力検査、歯科検診結果を家庭に知らせ、必要な子どもには受診を勧めており、特に、歯科に関しては治癒証明の提出をお願いしている。</p> <p>親子歯磨き教室やフッ化物塗布教室を開催したり、園児が自分の身体や歯に関心が持てる保育内容を提供している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>給食後の歯磨きは各自に任せており、保育士による確認や、場合によってはチェック後の仕上げ磨きは必要と思われる。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 <input type="checkbox"/> 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>「食物アレルギー児童対応マニュアル」を基に手順に沿った対応をし、安全を徹底している。また、家庭とは常に情報を密とし、職員間で共有を図っている。</p> <p>職員は研修で理解を深めるとともに、エピペンの使用訓練も定期的実施している。慢性疾患の子どもに対しては、専門機関からの指導事項に沿った子どもに合った保育内容を提供するとともに、緊急時の体制は確立されている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>子どもたちにはアレルギー疾患について話をし協力を求めており、保護者の方々にもアレルギー疾患や慢性疾患についての正しい理解推進の取り組みは期待したい。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 91 食器の材質や形などに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 <input checked="" type="checkbox"/> 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>食育年間計画や指導計画を通して、「食べ物に関心を持ち、楽しく食べる子ども」の目標に向けて取り組んでいる。</p> <p>個人差が大きい0歳・1歳児は個別指導計画に組み入れ、年齢に合わせた支援をしている。5才児は畑での野菜づくりを通して成長や収穫、食べる喜びを皆で共有している。それを見る4才児の自発的希求で手作りプランターでの野菜作りが始まる等、活動が広がっている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>サンプルケース等の活用で、その日の食への関心や期待、保護者へは献立内容や量が分かる取り組み、また子どもに人気のレシピの配布等、園と家庭との「食」についての繋がりを期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>0才児においては離乳食や形態について保護者と共通理解のもとに、一人ひとりに合った食事を提供している。そして、毎月1回は「食育の日」とし、その月の旬の食材を使っての料理、郷土食、伝統食の提供で「食」についての関心が持てる取り組みを実施している。</p> <p>また、毎月の身体測定の結果を保健師や栄養士が確認し、必要に応じて保護者と話し合いが持てるようにしている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>毎月の献立表や給食だよりを家庭に配布をしているので、さらに、園での食育に関する方針や取り組みについての情報提供も期待したいところである。</p>
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>[取り組み状況] 保育士体験ができる「保育参加」の取り組みで、集団の中での我が子の姿や保育士と子どもとの関わり方を通して、保育内容とその理解への機会としている。体験後はアンケートや担任との面談で忌憚のない話し合いがもたれている。</p> <p>また、連絡帳や参観日、行事、個別面談等を通して家庭との連携に努めている。</p> <p>[検討課題] 連絡帳でのバラつきのない記録内容についての話し合い、また、ホワイトボードを活用してその日の保育内容を知らせる等、家庭との連携や共に成長を喜びあえる更なる取り組みを期待したい。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 □ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>保護者の子育ての悩み、相談等に対しては個人面談や家庭訪問、療育相談などで応じている。日々の送迎時は会話や声掛けを多くし、気軽に相談できるよう心掛けている。また、子育てに関する有効な情報や催しについて保護者に知らせ、役立てられるよう図っている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>担当保育士が主として関わるだけでなく、全体で考え支援する等、安心して子育てができる更なる組織環境を期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。		b)	<input checked="" type="checkbox"/> 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 <input type="checkbox"/> 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 <input type="checkbox"/> 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 <input type="checkbox"/> 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>子どもとの日々の生活の中で心身の状態、家庭の養護状況を把握し、早期発見となるよう努めている。 マニュアルは整備され体制は整っているが、全職員の理解共有には不足を感じる。</p> <p>[検討課題]</p> <p>マニュアル等での研修で、単に傷だけの判断ではなく、ネグレクト、親の機能不全など、見落としのない専門性が必要と思われる。 また、子どもの権利についての深い学習の機会も併せて期待したい。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 <input type="checkbox"/> 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>指導計画に基づいて担当保育士は保育実践を客観的に振り返り、定期的に自己評価を行い、改善点や反省点を次の計画に活かしている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>担当保育士の自己評価を全員で話し合うことで、新たな気づきや課題が見えてくると理解したい。 そして、個々の自己評価を下にした園全体の評価へと繋げることで、計画性をもった質の向上への新たな取り組みの手立てが視えてくると思われる。</p>